

専齋 SENSAI



令和2年度第49期臨床研修医修了式が3月25日に執り行われました。
研修を無事終えた先生方、おめでとうございます！

診療科紹介 update

Vol.13 脳神経外科

臨床研修修了報告

TOPICS

- ・ 定年退職を迎えて
- ・ 母乳育児支援講演会を開催しました
- ・ 一般財団法人日本消化器病学会九州支部 第108回 市民公開講座
- ・ WEB学会におけるYouTube®風プレゼンテーションの試み
- ・ 医師人事異動(転出)

看護部だより Vol.29

診療放射線部だより Vol.3

地域医療連携室からのお知らせ

長與 専齋 (1838年~1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介

Update

Vol.13



脳神経外科

脳神経外科は現在5名のスタッフと2名の女性レジデントで構成され、さらに2名の診療看護師（JNP）とともに日常診療に従事しています。他科と比べ急患・急変も多い科でもあり、マンパワーとしては決して満足のいく環境とは言えませんが、他科の協力も借りながらチーム医療で不足分を補っております。主に県央・県南、離島における基幹病院として地域の脳神経外科診療に貢献しています。

対象疾患

脳卒中（クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳動脈瘤、脳血管奇形、頸動脈狭窄・閉塞症など）、てんかん、頭部外傷、脳腫瘍、顔面けいれんや三叉神経痛、正常圧水頭症など多岐にわたります。とりわけ脳卒中とてんかんはセンターを開設しており、高度な専門治療を行っています。

●高次脳卒中センター

救命救急医および脳神経内科医と連携し脳卒中ホットライン（NMC-SHOT）を導入、とりわけ離島における超急性期脳梗塞患者に対しては、全国に先駆け遠隔画像システムを使用したtelestrokeによる“drip and ship”を行い、昨今の血管内カテーテルによる血栓回収療法（drip, ship and retrieve）の普及も相まって、症例数は飛躍的に増加しています。

●てんかんセンター

小児科医と連携し、詳細な問診に加え長時間ビデオ脳波記録を含めた検査によって正確な病巣診断を行い、初期治療から難治症例に対する外科的治療も積極的に行っており、とりわけ幼児を含めた難治性小児てんかん患者さんは県外からも多く来院されます。

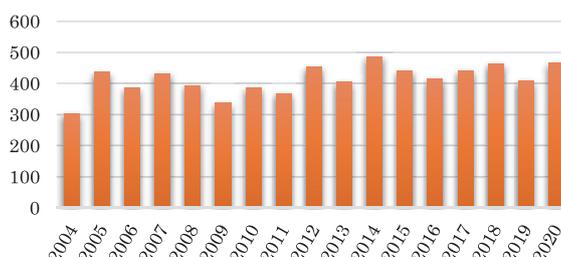
手術実績

年間手術数は450症例以上と、九州圏内においても有数の施設のひとつであり、脳卒中やてんかん以外にも、頭部外傷、脳腫瘍、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたる手術を行なっています。

脳神経外科年間入院患者数

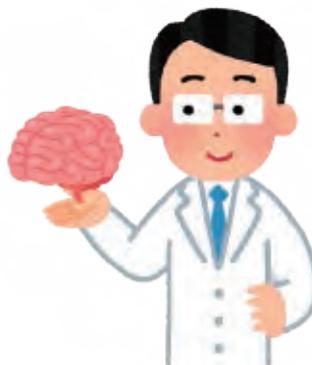


脳神経外科年間手術数



2020年手術内訳

手術名	患者数
脳動脈瘤頸部クリッピング	80
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	67
頭蓋内開頭血腫除去術	54
水頭症手術	35
てんかん外科手術	30
コイル塞栓術・TAE	29
緊急血栓回収療法	28
頭蓋内腫瘍摘出術	24
頸部内頸動脈内膜剥離術	21
迷走神経刺激装置埋込術	12
脳動静脈奇形摘出術	6
頸部頸動脈ステント・PTA	4
頭蓋内電極埋込術	2
その他	75



脳神経外科のミッション

県央、県南および離島地域との連携をより強化し、24時間365日体制で脳外科疾患に対応できるよう地域医療に貢献し良質かつ包括的な急性期医療を提供することです。同時に、将来を見据えた若手脳神経外科の人材育成にも重点を置くとともに、常にresearch mindを持ちupdateしながら情報発信していきたいと思っております。

対象疾患やお困りの症例があるようでしたら遠慮なく紹介して頂ければと思います。コロナ禍の厳しい社会情勢ではありますが、地域における基幹病院としての使命感を持って対応させていただきたいと思っております。また、脳神経外科に対する御意見や御要望に対しても随時承っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

2年間を振り返って 臨床研修 修了報告



2年間の初期臨床研修を終え、医師としてそれぞれが専門分野を定めて歩き始めるスタート地点に立ちました。各科の印象に残った出来事を思い出とともに振り返りました。

(写真は令和元年度に撮影したものです)



総合診療科

総合診療科では多岐にわたる疾患に触れ、鑑別疾患や治療についてたくさん学ばせていただきました。また疾患のことだけでなく、ご家族への連絡やIC、転院調整など3年目から行うべきことも学ぶことができました。3年目から外科医として離島勤務となりますが、内科疾患の診療も行う機会が多いため、4ヶ月の知識を活かして頑張っていきたいと思います。グラッツェ!

山口 彩

リウマチ・内分泌代謝内科

リウマチ・膠原病科では、全員と言っても過言では無いくらいにステロイドを内服しているため、内服前に気をつけるポイントや、内服中に起きてくる副作用など、今後内科医として知っておかなければならない知識を身につけることができました。のぞみ先生の外来では膠原病に特徴的な所見や、問診すべきポイントなど勉強することができました。内分泌・代謝内科では主に血糖コントロール、糖尿病患者さんの合併症管理を学ばせていただきました。なかなか生活習慣を改善することができないでいる患者さん達に寄り添いながら診療されている先生方とともに、穏やかな気持ちの1ヶ月間を過ごさせていただきました。

北村 雄哉

消化器内科

消化管内科と肝臓内科を同時研修し、外科との合同カンファレンスや自科カンファレンスでは各症例への理解を深めることができました。内視鏡室で実際に上部消化管内視鏡をさせていただいたり、ERCP/下部消化管内視鏡/消化管造影検査などの処置の見学/介助をさせていただいたりすることで各疾患や各検査において注意すべき点を間近で学びました。指導医の先生方もユニークで指導熱心な先生方ばかりで充実した研修となりました。

山道 翔太

腎臓内科

腎臓内科では慢性腎不全や透析管理などを中心に教えていただきました。電解質異常を伴っている場合も多く、電解質補正の考え方や症状のこと、輸液の選択などを詳細に説明していただきました。初めての内科ということもあり病棟管理に慣れていない中、丁寧に対応などについて説明いただき大変勉強になりました。

財田 祐希

呼吸器内科

1年次でローテートさせて頂きました。気管支鏡の手技や悪性腫瘍、感染症、びまん性肺疾患など専門的な内容のみならず、内科医として必要な知識を学ぶことが出来ました。充実した研修生活を送ることが出来ました。ご指導して下さいました先生方、ありがとうございます。

高尾 亮太



血液内科

病態や検査所見の解釈、治療の選択…どれもとても難しかったですが、先生方が丁寧に教えてくださいました。治療中に起こる様々な副作用に対して細やかな診察を行い、適切に対処される姿はとても印象的でした。内科的な全身管理についても学べた一ヶ月でした。

西村 紗央里



神経内科

当院は急性期病院であり、脳卒中診療を疑う症例にはSHOT callがかかり、上級医とともに診察し、NIHSSを一緒に評価させてもらいました。内科医として今後も働く僕にとって、一生涯使える知識を学ぶことができました。また入院中の管理や画像評価の仕方についてもみっちり指導していただきました。それだけでなく、変性疾患も持たせてもらいました。神経内科を選択したのは正解だと思う研修内容でした。

下司 安春

循環器内科

循環器内科ではカテーテル治療から心不全治療まで多くのことを学ぶことができました。また、経食道エコーやCGAをさせていただいたのもとても良い経験です。指導医の先生方は、親しみやすく些細な質問でも熱心に答えていただきとても充実した研修となりました。循環器に進む上で、今後お世話になるかと思いますが指導の程よろしく申し上げます。

五所 大和

皮膚科

研修期間を通して外来を中心にさまざまな疾患に触れることができました。皮膚疾患は病理で診断がつくことも多いですが、診察時に見て、触って、時には嗅いでしっかり鑑別をあげていくことの大切さを学びました。また、真菌検査やアレルギー検査はもちろんのこと生検、小手術も多く経験することができました。熱心に指導していただき、本当にありがとうございました!

深水 文恵

病理診断科

摘出標本の切り出し、病理標本の診断、病理解剖と多くの貴重な研修をすることができました。専門書を参考にしながら病理レポートを実際に記載し、先生方に丁寧に添削していただくというスタイルは、将来何科になる研修医にとって今後の診療に必ず為になる有意義な研修だと感じました。病理診断科の先生方、技師の方々はとても優しくして全体の雰囲気がよく、居心地の良い1ヶ月間でした。

矢田 玲奈

小児科

見えない血管、タオルに簧巻きになって泣き叫ぶ子どもたち、成人とは全く異なる処方内容…電卓とアンパンマンのキーホルダーを握りしめ、文字通り汗を流した日々でした。扱う疾患は頻度も分野も多彩でしたが、丁寧に指導をいただき、小児診療の奥深さを垣間見ることができました。何より患者さんがかわいくて、これほど病棟に行くのが楽しみなローテートはありませんでした。

泊 由里子

外科

3ヶ月のローテーションを通して、外科基本手技はもちろん、CV挿入、CVポート造設、虫垂炎などの執刀もさせていただきました。指導医の先生方は皆熱心で、手術に関する知識や術後管理の知識を余すことなく教えていただきました。日々の診療に加え、学術的な姿勢も学ぶことができ、自分の思う外科医の将来像を描くことができた貴重なローテートとなりました。

中尾 海





脳神経外科

手術や病棟業務で忙しい中でも、頭部のCT、MRIの画像所見の見方に加え、腰椎穿刺や術後の創部処置を丁寧に指導いただきありがとうございました。今後内科領域にすすんでいく上で、脳卒中や頭部出血性病変など、幅広く初期対応や周術期管理を学ぶ機会もいただき、今後の医師人生で役立つ知識を身につけることができました。院内学会での発表も指導いただき経験も積ませていただき感謝しています。

坂田 尚弥

泌尿器科

先生方のご指導のもと、前立腺生検やTULなど多くの手技をやらせて頂いたり、難しい手術と一緒にいらして頂いたりと様々な経験をさせていただきました。学会発表の機会やご指導していただき、大変感謝しています。とても雰囲気の良い診療科で、学ぶことも多く、日々楽しみながら充実した研修をすることができました。

本多 弘幸

産婦人科

1ヶ月の研修でしたが数多くの分娩や帝王切開に立ち会わせていただき、とても貴重な経験となりました。また、手術だけでなく外来での問診や胎児エコーも積極的に経験させていただき、周産期についての知識も深めることができました。指導医の先生方もとても優しく、丁寧に指導していただいたので、とても充実した研修となりました。

品川 博光

整形外科

この2年間で2か月間研修させていただき、外来での診察や処方、手術検討の際の患者説明の見学から、実際に大腿骨近位部骨折や橈骨遠位端骨折など幅広い手術の手技や手術の流れを間近に見ることができ勉強になりました。実際に髓内釘を入れる機会もあり、整形外科の先生方には手厚くご指導ご鞭撻いただきました。この研修を通して、もともと興味があった整形外科に進むことを決めました。

中谷 潤

耳鼻いんこう科

一年目の後半に耳鼻科をローテートさせて頂きました。耳鼻科では研修医に気管切開や喉頭ファイバー、耳鏡検査などの検査・治療を経験させて頂くことができ、充実した楽しい時間を過ごすことができました。また手術の幅は広く、外来治療、嚥下検査と耳鼻科診療を満遍なく学ぶことができました。今後の専攻のきっかけとなり、謝辞申し上げます。謝謝!

近藤 玲末

麻酔科

刻一刻と変化するモニターの数値、グラフ、音に、ひとり麻酔をする立場で思考を巡らせた時間は、緊張感に溢れ、使命感に駆られ、責任感に苛まれた轟動的な時間でした。

研修医に与えられた裁量は大きく、自分の介入で患者さんの状態がリアルタイムに変化していく様が見られたことは、どの研修医にとっても貴重な経験になったことと思います。

得られた経験を今後の診療に活かしていきたいと思えます。

川副 靖晃

放射線科

普段なかなか時間をかけてみることはなかった画像(とくに腹部CT)をじっくりと見た1ヶ月間でした。本を読んで画像診断の勉強をすることもできますが、実際にCT画像をコロコロしながら勉強するのって、実は意外にできないことなので、とてもいい勉強になったと思います!以前よりCT画像に対する抵抗感はなく、少しは読影力がUPしたように思います。

本川 由佳子



救急科

救急外来対応からICU管理まで幅広く学ぶことができました。県央地区だけでなく島原や離島医療までカバーしており日々忙しく緊張感のある現場でしたが教育熱心な先生方の助けもあり充実した3か月を送ることができました。夜間当直帯でのヘリ搬送は研修生活の中で大変思い出深い経験の1つです。

峯 慧輔



臨床研修管理委員長 長岡 進矢

- 長崎医療センター第49期研修医のみなさん、研修修了おめでとうございます。
- コロナ禍の中、先生方には色々とお我慢してもらったことが多かったですが、立派に研修を終えられました。先の未来は予測できないVUCA（ブーカ）時代と呼ばれる現在、世の中の急激な変化に対応できる柔軟な思考、確かなスキルがこれまで以上に必要となってきます。目標をしっかりと持ち、誠実さを大切に大きく羽ばたいていって下さい。先生方のご活躍を楽しみにしています。

眼科

手術では白内障手術、硝子体手術や小児眼科手術など幅広く経験させていただき、外来でも眼科の診察や所見の取り方、検査結果の見方など一から丁寧に指導いただきました。全てがとても奥深く、眼科の面白さや魅力を感じることができました。先生方がとても優しく指導くださり、とても充実した研修をおくることができました。

高尾(中村)美貴

TOPICS

定年退職を迎えて



小児科部長
田中 茂樹

1995年9月からお世話になり、あっという間に25年が過ぎてしまいました。国立長崎中央病院から長崎医療センターに生まれ変わり、成長していく姿を間近に見ながら、多くの事を経験させていただきました。スタッフが楽しく、気持ちよく働ける職場づくりを目標に病棟運営や診療科のまとまりに気を付けて頑張ってきたつもりです。「4A病棟は働きやすいです。」と多くの看護師さん達に言っていたのは私の誇りです。大学からの若手医師、企業団所属の小児科の先生、当院の初期研修医の先生方など多くの若い先生達と交流の機会を数多く持つことができ、あまり老け込むことなく定年を迎えられたかなと思っています。長い間ありがとうございました。



理学療法士長
中川 真吾

長崎医療センターには2002年からの5年間と2017年からの4年間で勤務させていただきました。今は「リハビリ」という言葉を知らない人はいないと思いますが、私が理学療法士の学校に行くことを高校の進路指導相談時に先生に話をした時、帰ってきた言葉は「リハビリ？ 理学療法士??? 怪しい療法じゃないのか?! やめたほうがいいぞ。」と言われたのを覚えています。長崎医療センター勤務の思い出に関しては、最初の勤務時はリハスタッフが3名で馬車馬のように働いていたこと、2度目の勤務時は多職種連携の重要性を痛感したことです。今まで医療職・事務職の方々を支えられて業務ができたことに感謝しています。ありがとうございました。

母乳育児支援講演会を開催しました

小児科医長 青木 幹弘

WHOは「母乳育児を行わないことで失われる経済的損失は年間30兆円以上にのぼる」などとして母乳育児の重要性を強調しています。この母乳育児の成否を左右する要因の一つが乳房ケアです。そこで、2月6日に乳房ケアに焦点を当てた母乳育児支援講演会を開催しました。今回、新型コロナウイルス感染拡大のため、院外からの参加者はリモートでのハイブリッド開催としました。土曜日の午後にもかかわらず、院内29名、院外からは8施設、34名の方に参加していただきました。

講師の寺田恵子さんは「赤ちゃんの母乳吸啜メカニズムに基づく乳房ケア」であるBSケアの開発者で、長年現場で母子を支援してきたエキスパートです。医師であるボクにとって乳房ケアは門外漢でしたが、とても興味深く拝聴でき、時間は全然足りませんでした。講演の中でボクの心に残ったのが、「ケアとは

ひとりの人を全人的にとらえ、心身両面で支えること」でした。このことはすべての医療的ケアに通じることと感じました。

今回、講演会を開催するにあたって病院に全面的に支援していただきました。今後、院内の様々な部署でこのような試みがなされると良いなと感じました。



TOPICS

一般財団法人日本消化器病学会 九州支部 第108回 市民公開講座

【世話人/司会】臨床研究センター長 黒木 保

今回の市民公開講座は、オンデマンド配信（録画）となりますので、お好きな時にご視聴いただけます。

【講演1】「胆石を知ろう！」

腫瘍内科 佐伯 哲

【講演2】「便秘を知ろう！」

消化管内科 西山 仁

【講演3】「胃がんについて知ろう！」

外科 米田 晃

【講演4】「大腸がんについて知ろう！」

外科 竹下 浩明

各講演の動画をご視聴頂くには、パソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスしてください。

視聴は無料ですが、視聴するにあたり通信料がかかります。

通信料はご視聴いただく方のご負担となりますので予めご了承ください。

視聴方法

パソコン ▶

長崎医療センター 🔍

スマートフォン・
タブレット ▶



検索

TOPICS

WEB学会におけるYouTube®風プレゼンテーションの試み

てんかんセンター/脳神経外科医長 小野 智憲

もうじき1年になるコロナ禍は、医療現場を含め各方面での仕事のあり方に変貌をもたらしていますが、医学界においても例外ではありません。ご存知のように学会や研究会はWEB上での配信が主体となり、参加者の発表は机上のカメラに向かって行うことが普通になりました。Zoom®などのビデオコミュニケーションサービスを利用したり、スライドを用いたプレゼンテーション動画をアップロードしたり、皆さんにもこの様式はだいぶ浸透したのではないかと思います。確かに聴きたい話を集中して聴け、質問も気軽にチャットできるなど非常に便利なスタイルにはなりましたが、なにか物足りなさを感じておられる方も多いのではないのでしょうか？ほぼ例外なく演者の声のトーンは低く、ずっとスライド画面とにらめっこで、本を読んでいる（いや正確にはKindle® Audibleを聞いている）かのような気分かもしれません。発表しても視聴者の反応は全く分からず、自分の考えが正しいのかさえも感触がつかめません。簡単に言うならば、迫力というか、臨場感というか、人と接する活気が伝わってこないのです。そこで、私は変化をつけるべくYouTube®風プレゼンテーションを作成して発表するスタイルを始めました（そういうユーチューバーがいるので真似しました）。大きな黒板に発表の要点を図示し、その横で私が身振り

手振り説明する姿を収録し、最後に字幕やイラストを動画編集で盛り込むという手法です。1月に行われた学会では、シンポジウム演題2つとランチョンセミナー1つの計3本の収録・編集を（一人で）行い、発表に用いました。おそらく、医学会では本邦初？の試みではないかと思いますが、反響として「まるでユーチューバー、まるで予備校講師」などの狙い通りのコメントもいただきました。内容はもちろんのこと、全国の仲間たちに私の元気な姿を届けられたと思います。セミナーのような長尺だとさすがに編集が大変ですが、発表時間を厳守でき、強調したい点（あと、言い間違えた点も）編集時に字幕で被せることが便利です。少なくとも今年1年、みんなに飽きられるぐらいまで、この発表スタイルで頑張ってみたいと思います。興味ある方はご連絡ください。



TOPICS

医師人事異動(転出)

医療職(一)医師

外科医長 山之内 孝彰
外科医長 徳永 隆幸
腎臓内科医長 浦松 正
内分泌・代謝内科医長 池岡 俊幸
産婦人科医師 梅崎 靖
外科医師 平山 昂仙
外科医師 山下 万平
整形外科医師 梅木 雅史
整形外科医師 水田 和孝
整形外科医師 吉田 悠哉
耳鼻いんこう科医師 山本 昌和
耳鼻いんこう科医師 近松 春奈

血液内科医師 北之園 英明
神経内科医師 上野 未貴
内分泌・代謝内科医師 徳満 純一
循環器内科医師 竹中 悠輔
小児科医師 吉岡 佐千佳
小児科医師 石橋 信弘

医療職(一)レジデント・専修医

形成外科レジデント 井町 賢三
肝臓内科レジデント 別府 麻美
小児科専攻医 上紙 真未
小児科専攻医 浦川 立貴
小児科専攻医 佐々口 祐子

外科専攻医 竹井 大貴
消化器内科専攻医 児嶋 知仁
泌尿器科専攻医 正戸 正人
神経内科専攻医 番園 隆浩
呼吸器内科専攻医 田川 隆太
救急科専攻医 本石 裕也
救急科専攻医 岡村 岳
救急科専攻医 小淵 幸稔
救急科専攻医 松尾 徳久
総合診療科専攻医 山元 暢
総合診療科専攻医 安田 淳
総合診療科専攻医 大野 渚
肝臓内科専攻医 池田 智成

看護部だより Vol.29

新人看護師の成長

レベル | 担当副看護師長 石丸 亜紀奈

令和2年度の新人看護師は、コロナ禍の中、社会人としての第一歩を踏み出しました。

入職したての昨年の4月はまだ初々しいばかりでしたが、経験を重ねるごとに看護師としての自覚と責任感も増し、長崎医療センターのチームの一員として成長しています。

集合教育においてもはじめは、日々業務に追われていることや自己の不安について話すことが多かったのですが、次第に看護実践場面で患者さんとの関わりで困ったこと、悩んだことを通して、「患者さんがなぜそのような発言や行動をしているのか考える必要があると思った。」「忙しいことを理由にせず患者さんとの関わりを大切にしようと改めて感じた。」と患者さん目線で物事を考えることが出来るまでに成長してきました。

8回の研修では基本的な看護技術やフィジカルアセスメント、生命の危機状態にある患者の看護、SBARを用いた報告、KYTや多重課題への対応について学び、現場での経験も含めて、最終的には「根拠のある看護」、「先取りの看護」を実践していきたいという言葉も聞かれ成長した姿が印象的でした。

今年度は、新人看護師同士で親睦を深めたり、リフレッシュしたりする機会がない中、研修の短時間の中で悩みを共有し、お互いを励まし合いながら1年間よく頑張ってきたと思います。

この1年で看護師としての仕事や環境にも慣れ、今後は自分の看護観についても考える機会が出てくると思います。これまでの学びや経験を通してステップアップし、看護の喜びや楽しみを感じながら、「私らしい」看護を行なってもらいたいと思います。



技術教育の様子



大切にしたい看護の発表

診療放射線部だより

Vol.3



Elektta社製
Synergy



Varian社製
True Beam

高精度放射線治療について

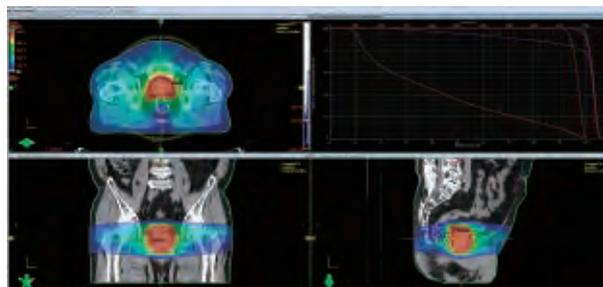
診療放射線部 石田 秀樹

がんの治療には、大きく分けて「手術」「放射線治療」「化学療法」という3つの治療法があります。これまで、がんを直接取り除く外科手術が確実な治療法でしたが、最近の放射線治療技術の進歩は目覚ましく、手術と同程度の効果を望める「高精度放射線治療」が登場しました。特にピンポイント照射(SRS, SRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、強度変調回転放射線治療(VMAT)、画像誘導放射線治療(IGRT)による治療成績向上および有害事象軽減が非常に注目されています。当院でも、高精度放射線治療に対応するべく最新鋭の放射線治療機器を2台導入しています。

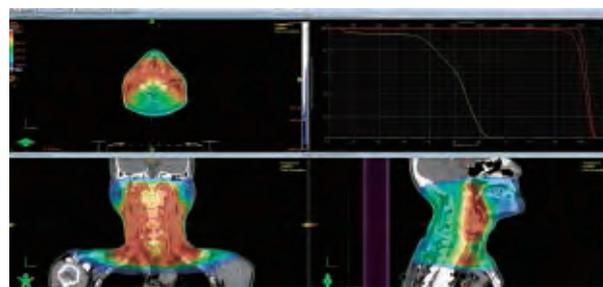
この2台の治療装置では「小さな腫瘍や複雑な形状の腫瘍に対して高度にフィットさせた照射野を作ることができる」、「高い出力性能を備えており、無駄な被ばくを抑えながらより短い時間で照射ができる」、「照射直前に腫瘍位置のずれを瞬時に計算し、ミリメートルの誤差範囲で微調整を行うことができる」というアドバンテージを持っています。当院ではこれらのアドバンテージを組み合わせることにより、小さな腫瘍から複

雑な形状の腫瘍まで幅広く治療することが可能となりました。さらに、SRS, SRT, IMRT, VMAT, IGRTといった高精度放射線治療の精度が向上し、短時間かつ安全に治療することが可能になりました。当院ではこれまでも、高精度放射線治療に取り組んできましたが、マンパワー不足のため、定位放射線治療の対象は、早期肺癌・肝臓癌・脳転移に限定せざるを得ませんでした。しかし、令和2年4月から、放射線治療医が2名に増え、さらにIMRT加算が取得可能となったため、現在は前立腺癌、頭頸部癌のIMRTにまで対象を広げています。今後は高精度放射線治療を積極的に提供していきたいと考えています。

今回、放射線治療医が増員されたことにより、当院においても従来に比べ、ハイレベルな高精度放射線治療を提供できるようになりました。今後はさらに充実した放射線治療が提供できるように、スタッフ(医師・技師・看護師)の修練・研修を進めます。そして地域の方々に対して、安全で精密な国際標準がん医療ならびに先進医療を提供していきます。



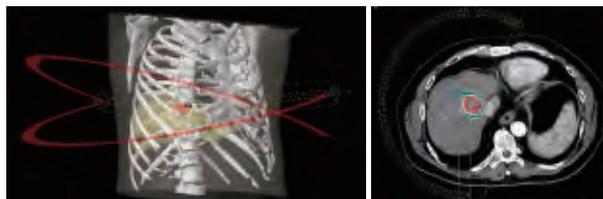
強度変調放射線治療（前立腺）



強度変調放射線治療（頸部）



定位照射（頭部）



定位照射（肝臓）

地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室より、当院の専門・認定看護師の活動をご紹介します！

がんに特化した専門・認定看護師による がん患者サポートのご案内

がん患者さんやご家族の苦痛や療養上の不安に対して一緒に考え、
安心して治療や療養ができるように、専門の看護師がサポートさせていただきます。

対象となる方: 当院に通院中のがん患者さんとそのご家族

相談内容

病気や治療の説明を
聞いたが、もう少し
詳しく聞きたい

病気による痛みや症状、
治療の副作用を
緩和して欲しい

治療の選択が
決められない…

治療をしながら
どのように生活していけば
いいのか困っている…

今後の療養の場の
選択を知りたい

本人・家族で
病気のことについて
どのように相談しよう…

日時：月曜日から金曜日 10:00～16:00

場所：県央がんセンター・がん相談支援センター患者サポート室(窓口)

☆がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師

がん放射線療法看護認定看護師 がん化学療法看護認定看護師が対応します。



※がん患者サポート対応は、保険診療の取り扱いとなり、
診療費が発生する場合があります。
(がん患者指導管理料 200点/回)

お問い合わせ

独立行政法人 国立病院機構 長崎医療センター
電話:0957-25-3121(代表)
県央がんセンター・患者サポート室



理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する